

事業年度	毎年2月1日から翌年1月31日まで
定時株主総会	毎年4月下旬
基準日	毎年1月31日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL https://www.ishiihyoki.co.jp/
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777（通話料無料）

【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の全国本支店でお支払いいたします。



住 所 広島県福山市神辺町旭丘5番地
電 話 番 号 084-960-1247（代表）
F A X 番 号 084-960-1010
ホームページ <https://www.ishiihyoki.co.jp/>



第50期 報告書

2022年2月1日 ▶ 2023年1月31日

ORIGINALITY,

PASSION,

CHALLENGE.

様々な環境変化に対応するため、当社グループの持つ技術を有望な分野へ展開できるよう開拓してまいります。



2023年4月

代表取締役会長 石井 峯夫

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当連結会計年度（2022年2月1日から2023年1月31日まで）の事業をご報告するにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当連結会計年度における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、経済活動が緩やかに持ち直す動きがみられたものの、ロシアのウクライナ侵攻の影響など国際情勢に関連したエネルギー、原材料価格の上昇に加え、米国の政策金利の引き上げの影響による大幅な為替変動など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループにおきましては、半導体向けパッケージ基板の需要は引き続き堅調に推移し同分野での設備投資が増加したことや、中国上海市のロックダウン解除後現地の連結子会社である上海賽路客電子有限公司が生産を正常化させ、中国経済の回復に伴い増加した電子部品実装需要に対応したことに加えて、海外連結子会社の為替換算の影響もあり前連結会計年度と比較して増収増益となりました。一方では、引き続き世界的なエネルギー、原材料価格の上昇や供給不足など生産活動の下振れリスクには注意が必要です。

景気の先行きにつきましては、新型コロナウイルス感染症の行動制限緩和に伴い経済活動が正常化し持ち直しが期待される一方で、ロシア・ウクライナ情勢の長期化や原材料の価格高騰、調達の懸念も当面引き続き先行き不透明な状況が続くと予想されます。

このような経済環境の中、当社グループは、さらなる事業の安定化と特定事業領域への依存からの転換を優先的に進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「独創的」な製品作りに情熱を持って「挑戦」し、会社と社員の永遠の幸福を目指します。

I 世界一の技術集団として
永遠の成長を目指します

II 「人」を大切にし、
活躍の場を提供します

III 地域に根ざした企業活動を通じ、
経済社会に貢献します

◆ビジョン

高収益の技術集団

◆会社方針

顧客を継続的に創造し、社員に夢を持たせる
安定と成長、キャッシュ・フロー経営の強化

- ① 製造業の原点回帰（実行力）
- ② 適時、適材、適所
- ③ ボーダレス経営
- ④ 事業の選択と集中

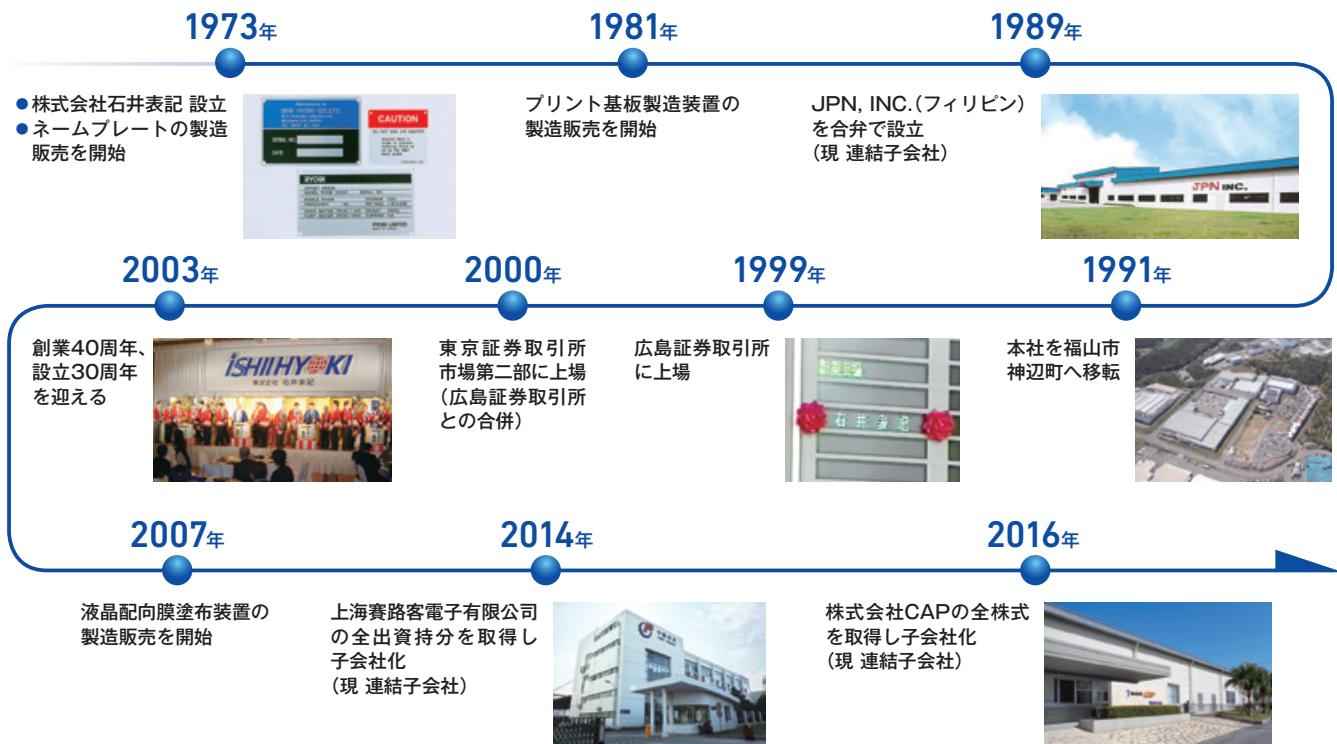


さらなる未来へ挑戦を。

株式会社石井表記は2023年4月、設立50周年を迎えました。
 長きにわたり、支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。
 「表面」にこだわりお客様のご要望に応えるべく装置開発や技術開発に
 邁進した50年。
 これからの50年も「高く、これからもずっと」挑戦し続けてまいります。
 今後とも変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。



設立50周年特設サイト <https://www.ishiihyoki.co.jp/50th-anniversary/>



株式会社石井表記の代表取締役社長に
 2023年4月25日付で山本晋宏が就任いたしました。
 今回の報告書では、就任間もない新社長に
 事業戦略や将来への抱負などについて話を聞きました。

- 1994年 5月 当社 入社
- 2009年 2月 当社マシナリー事業部長 就任
- 2013年10月 当社装置事業本部技術部長 就任
- 2014年 8月 当社インクジェット事業本部長 就任
- 2015年 4月 当社取締役装置事業本部長兼インクジェット事業本部長 就任
- 2016年 8月 株式会社CAP 取締役 就任
- 2018年 2月 上海賽路客電子有限公司 董事 就任
- 2018年 2月 株式会社CAP 代表取締役 就任(現任)
- 2021年 4月 当社常務取締役装置事業本部・インクジェット事業本部統括 就任
- 2023年 4月 当社代表取締役社長 就任(現任)



代表取締役社長 山本 晋宏

このたび代表取締役社長に就任いたしました山本晋宏でございます。

社長就任にあたりまして、皆様に謹んでご挨拶を申し上げます。

30数年前、私が初めて社会人になった時、技術的な基礎等を教えていただいた私が師と仰いでいる方が、よくおっしゃっていた言葉があります。

『商品は買っているのではなく、売ってもらっているんだ。そして、我々が製造した製品は売っているのではなく、買ってもらっているんだ。』

この言葉で、謙虚な気持ちで仕事に取り組む姿勢、心構えを教えられ、以来、金言として今まで心がけてまいりました。



当社も設立50周年を迎えることができ、当社がこれまでに築いた様々な信頼関係、そして『謙虚な気持ち』を次の世代に繋げていくことを第一に考え、今以上に社業発展に尽力し、次なる50年に邁進する所存です。

皆様のご期待に沿えるよう専心努力してまいりますので、今後ともご指導ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

Q 株式会社石井表記をこれからどんな会社にしていきたいですか？

A 当社はおかげさまで今年の4月9日で設立50周年を迎えることができました。これもひとえに皆様のご支援、ご愛顧の賜物と心から感謝いたしております。これからさらに、70年、100年と続いていく会社となるよう、関わる方たちを大切に、当社グループの繁栄に貢献していきたいと考えております。

Q これから当社にとって鍵となってくる課題、テーマはありますか？

- A ・次の製品開発と、既存技術の横展開。
- ・今後の石井表記を担う力のある新入社員の雇用。

上記2点は当社にとってこれからの重要な経営課題であると認識し、積極的に対応を進めていくことで、会社にさらなる利益がもたらされると考えております。

Q 従業員に期待することは何ですか？

A ひとりひとりが成長し、リーダーシップを取れる人材になることを期待しております。

形骸化している業務の改善・改革や、新たな製品の開発、新たな事業の柱の確立など、個々人がさらなる高みを目指し、そして我々経営陣は経営の意思決定・実行をスピードアップすることで、当社グループは成長していけるものと考えております。

Q 尊敬している人、目標にしている人はいますか？

A 自分を犠牲にしても人のために尽くす人は全て尊敬しております。

また、目標にしている人という大変おこがましいのですが、百田尚樹氏著書の『海賊とよばれた男』を拝読し、感銘を受けたことから、出光興産株式会社創業者の出光佐三氏を大変尊敬いたしております。

Q 座右の銘を教えてください

A 座右の銘は定期的に変わる物、自分が置かれた状況により都度変わって良いと思います。

今の私の座右の銘は『背水の陣』と、『初心忘るべからず』。

『背水の陣』は私が石井表記の入社面接の際に使用



した言葉で、福山へ帰ってきた際の思いです。

『初心忘るべからず』は、自分が少しでも慢心した時に諫める思いです。

Q 最後に株主の皆様に向けて一言

A 太陽電池関連事業からの撤退、そして石井表記ソーラー株式会社の解散を経て10年余り経過しておりますが、まだまだ本来の石井表記の力が戻ったとは思っておりません。1日でも早く石井表記の本来の力を取り戻し、収益性の向上を目指していきたいと思っております。

電子機器部品製造装置

売上高 前連結会計年度比 **UP**
55億22百万円 **19.4%**

営業利益 前連結会計年度比 **UP**
9億56百万円 **4.5%**

売上高／営業利益（△損失）（単位：百万円）

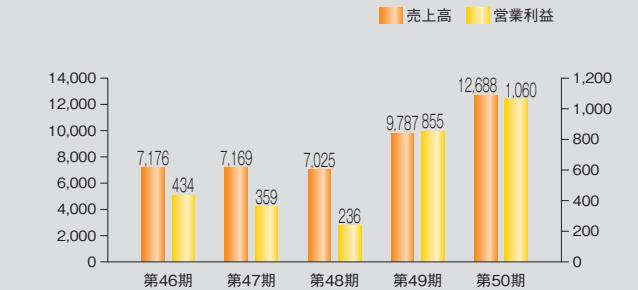


ディスプレイ及び電子部品

売上高 前連結会計年度比 **UP**
126億88百万円 **29.6%**

営業利益 前連結会計年度比 **UP**
10億60百万円 **23.9%**

売上高／営業利益（単位：百万円）



プリント基板分野

●引き続き半導体向けのパッケージ基板の需要が堅調に推移し、前連結会計年度と比較し売上高は増加いたしました。

液晶関連分野

●液晶パネルの減産に伴い生産消耗品の販売が減少したものの同分野向けの生産設備の販売が増加し、前連結会計年度と比較し売上高は増加いたしました。

その結果、売上高は55億22百万円（前連結会計年度比19.4%増）、営業利益は9億56百万円（前連結会計年度比4.5%増）となりました。



水平搬送UP/DOWN方式 電気銅メッキ装置

【主要製品】

- HS研磨機 ● FBC研磨機 ● インクジェットコーター
- 極薄基板用研磨機 ● 超音波洗浄機 ● アクアクリーンシステム
- セラミックジェットスクラブ機 ● 極薄基板用水洗乾燥機
- 水平搬送UP/DOWN方式 電気銅メッキ装置

自動車向け印刷製品

●顧客の生産調整が影響し前連結会計年度と比較して売上高は減少いたしました。

工作機械及び産業用機械向け操作パネル

●電子部品等の部材の調達難の影響を受けておりますが、納期の長期化を見越した客先からの先行発注の動きは続いており売上高は前連結会計年度と比較し増加いたしました。

その他

●JPN, INC.は、フィリピン国内において新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも通常の生産体制を維持し顧客の需要増加へ対応し、また為替換算の影響もあり前連結会計年度と比較し増収増益となりました。上海賽路客電子有限公司につきましても、部材の価格高騰等の影響を受けたものの中国上海市のロックダウン解除後に生産活動を正常化させ、増加する電子部品実装需要に対応したことや為替換算の影響もあり、前連結会計年度と比較し増収増益となりました。

その結果、売上高は126億88百万円（前連結会計年度比29.6%増）、営業利益は10億60百万円（前連結会計年度比23.9%増）となりました。

○オートモーティブ製品



○GOP液晶システム



○メンブレンスイッチパネル・ユニット製品



○シルク印刷・ラベル印刷・アルマイト銘板



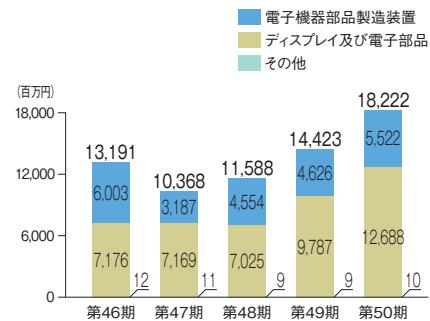
自動販売機表示プレート部分拡大

「つめた〜い」 あったか〜い あっ

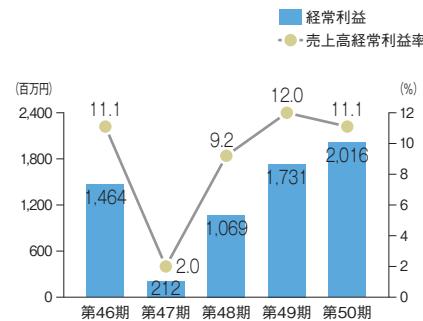


	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
売上高 (千円)	13,191,893	10,368,079	11,588,490	14,423,708	18,222,306
営業利益 (千円)	1,456,562	321,169	1,078,945	1,770,842	2,015,922
経常利益 (千円)	1,464,555	212,467	1,069,725	1,731,031	2,016,716
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	1,056,155	105,274	726,854	1,490,743	1,639,794
純資産額 (千円)	3,058,044	3,056,551	3,672,922	5,463,948	7,422,308
総資産額 (千円)	11,902,907	12,257,259	12,388,300	13,487,001	16,238,801
1株当たり純資産額 (円)	366.22	374.89	450.50	670.18	910.39
1株当たり当期純利益 (円)	129.54	12.91	89.15	182.85	201.13
総資産当期純利益率 (ROA) (%)	8.87	0.86	5.87	11.05	10.10

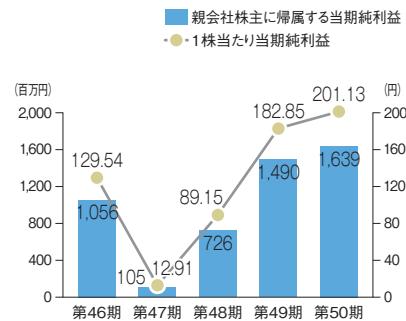
事業の種類別売上高



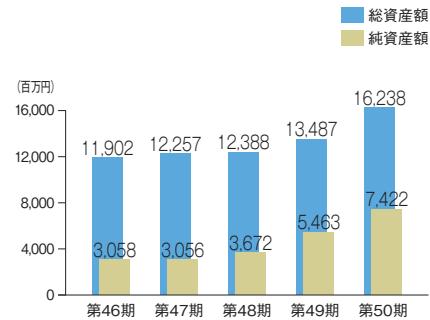
経常利益/売上高経常利益率



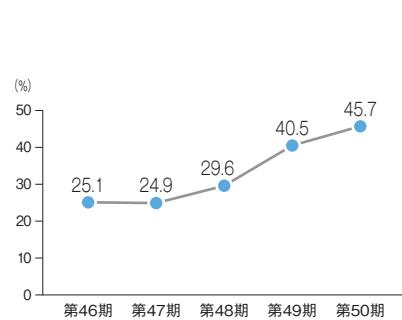
親会社株主に帰属する当期純利益/1株当たり当期純利益



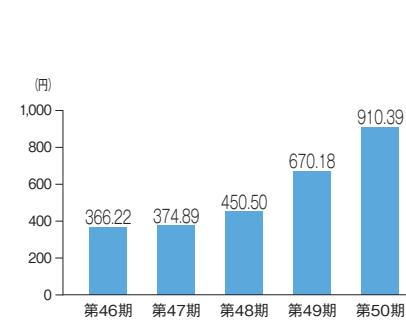
総資産額/純資産額



自己資本比率



1株当たり純資産額



太陽光パネルの増設

当社は2007年に200kWの太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーの活用を開始しており、昨今、気候変動が深刻化し世界的にも脱炭素経営が求められていること、またESG投資が拡大していること等を踏まえ、2022年1月に219kWの太陽光パネルの設置を行い、今年さらに292kWの太陽光パネルを設置いたしました。

今までに設置した太陽光パネルに加え、新たに設置した太陽光パネルで、年間約250t以上のCO₂排出量を削減することができ、また、当社といたしましても、近年の電力量料金の高騰に対し、コスト削減が期待できます。

今後も、省エネ、環境負荷低減といった環境面にとどまらず、様々な側面から当社ができる取り組みを模索し、地域社会に信頼される企業を目指してまいります。



設置場所

広島県福山市神辺町旭丘6-3
当社インクジェット棟屋根

設置年月

2023年2月

容量

292kW

CO₂削減見込み

114.02t/年

連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当期末 (2023年1月31日現在)	前期末 (2022年1月31日現在)
(資産の部)		
① 流動資産	10,500,517	8,146,830
固定資産	5,738,283	5,340,171
資産合計	16,238,801	13,487,001
(負債の部)		
流動負債	5,956,511	6,747,047
固定負債	2,859,981	1,276,005
負債合計	8,816,492	8,023,053
(純資産の部)		
株主資本	7,034,787	5,472,429
資本金	300,000	300,000
資本剰余金	1,107,799	1,107,799
利益剰余金	5,647,232	4,084,816
自己株式	△ 20,244	△ 20,186
その他の包括利益累計額	387,521	△ 8,480
② 純資産合計	7,422,308	5,463,948
負債純資産合計	16,238,801	13,487,001

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

① 流動資産
売上高の増加に伴い受取手形及び売掛金の合計が増加し、受注実績の増加、原材料仕入納期の長期化へ対応するまとめ買いの影響で棚卸資産が増加したことなどから前連結会計年度末に比べ23億53百万円増加しました。

② 純資産合計
親会社株主に帰属する当期純利益を16億39百万円計上したこと、為替換算調整勘定が3億67百万円増加したことなどから前連結会計年度末に比べ19億58百万円増加しました。この結果自己資本比率は5.2ポイント増加し45.7%になりました。

連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当期 (2022年2月1日から 2023年1月31日まで)	前期 (2021年2月1日から 2022年1月31日まで)
③ 売上高	18,222,306	14,423,708
売上原価	13,818,796	10,467,696
売上総利益	4,403,509	3,956,012
販売費及び一般管理費	2,387,587	2,185,169
③ 営業利益	2,015,922	1,770,842
営業外収益	141,610	96,801
営業外費用	140,816	136,612
③ 経常利益	2,016,716	1,731,031
特別利益	2,099	9,706
特別損失	533	16,195
税金等調整前当期純利益	2,018,282	1,724,542
法人税、住民税及び事業税	220,305	231,012
法人税等調整額	158,182	2,787
③ 当期純利益	1,639,794	1,490,743
親会社株主に帰属する当期純利益	1,639,794	1,490,743

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

③ 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益
当社において増収増益となったことに加え、連結子会社のJPN, INC.では印刷産製品の需要が堅調に推移し、上海賽路客電子有限公司でも中国上海市のロックダウン解除後中国経済の回復に伴い増加した電子部品実装需要に対応したこと、また円安による為替換算の影響もあり前連結会計年度と比べ増収増益となりました。

個別貸借対照表

(単位：千円)

科目	当期末 (2023年1月31日現在)	前期末 (2022年1月31日現在)
(資産の部)		
④ 流動資産	4,930,407	3,826,571
固定資産	5,045,257	5,108,555
資産合計	9,975,665	8,935,126
(負債の部)		
流動負債	3,859,212	5,148,131
固定負債	2,220,463	794,503
負債合計	6,079,675	5,942,635
(純資産の部)		
株主資本	3,895,923	2,998,965
資本金	300,000	300,000
資本剰余金	1,068,072	1,068,072
利益剰余金	2,548,095	1,651,078
自己株式	△ 20,244	△ 20,186
評価・換算差額等	66	△ 6,474
その他有価証券評価差額金	66	△ 6,474
純資産合計	3,895,989	2,992,490
負債純資産合計	9,975,665	8,935,126

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

④ 流動資産
売上高の増加に伴い売掛金が増加し、受注実績の増加、原材料仕入納期の長期化へ対応するまとめ買いの影響で棚卸資産が増加したことなどから前事業年度末に比べ11億3百万円増加しました。

個別損益計算書

(単位：千円)

科目	当期 (2022年2月1日から 2023年1月31日まで)	前期 (2021年2月1日から 2022年1月31日まで)
⑤ 売上高	8,435,869	7,341,709
売上原価	5,934,038	5,001,030
売上総利益	2,501,831	2,340,678
販売費及び一般管理費	1,673,338	1,635,139
⑤ 営業利益	828,492	705,539
営業外収益	467,738	277,778
営業外費用	146,785	85,887
⑤ 経常利益	1,149,445	897,430
特別損失	512	12,119
税引前当期純利益	1,148,933	885,310
法人税、住民税及び事業税	177,163	125,901
法人税等調整額	△ 2,625	△ 124,406
⑤ 当期純利益	974,395	883,816

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

⑤ 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益
原材料価格の高騰や仕入納期の長期化の影響を受けましたが、前事業年度に続きプリント基板分野で半導体向けのパッケージ基板の需要が拡大し同分野での設備投資が増加したこと、液晶関連分野で同分野向けの生産設備の販売が増加したことなどから前事業年度と比べ増収増益となりました。

商号 株式会社石井表記
 設立 1973年4月
 資本金 300,000,000円
 本社 広島県福山市神辺町旭丘5番地
 営業所 東京支店（東京都板橋区）
 千葉営業所（千葉県市川市）
 横浜営業所（神奈川県川崎市）
 名古屋営業所（愛知県一宮市）
 大阪営業所（大阪府吹田市）
 滋賀営業所（滋賀県草津市）
 明石営業所（兵庫県明石市）
 広島営業所（広島県安芸郡）

従業員数 318名（連結 674名）

関係会社 国内 株式会社CAP
 海外 JPN, INC.（フィリピン）
 ISHII HYOKI (SUZHOU) CO.,LTD.（中国）
 上海賽路客電子有限公司（中国）



ホームページのお知らせ

<https://www.ishiihyoki.co.jp/>

ホームページにアクセスしていただきますと、
 当社の各種情報をご覧いただけます。

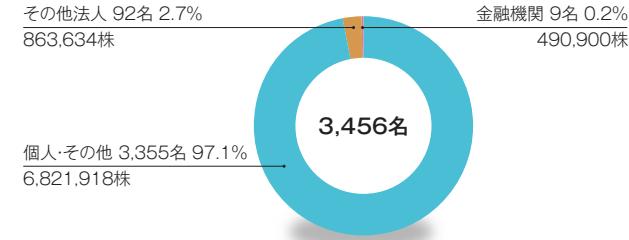
(2023年1月31日現在)

取締役及び監査役 (2023年4月25日現在)

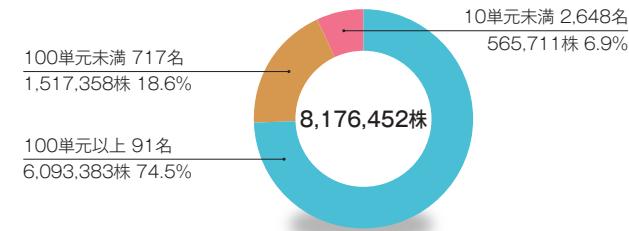
代表取締役会長	石井 峯夫
代表取締役社長	山本 晋宏
取締役副社長	渡邊 伸樹
専務取締役	平坂 晋二
常務取締役	松井 忠則
取締役(社外)	石井 裕工
取締役(社外)	本田 祐二
常勤監査役	貝原 睦規
監査役(社外)	森末 辰彦
監査役(社外)	松岡 清史

(2023年1月31日現在)

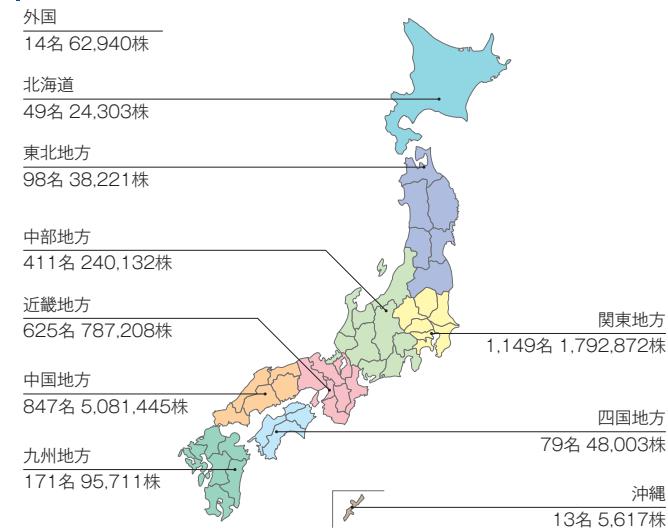
所有者別株主分布状況



所有株式数別株式分布状況



地域別株式分布状況



発行可能株式総数	31,644,909株
発行済株式総数	8,176,452株
株主数	3,456名

大株主(上位10名)

株主名	所有株式数	持株比率
石井 峯夫	1,908,446株	23.41%
石井 敏博	615,000株	7.54%
イシイヒョーキ従業員持株会	571,366株	7.01%
石井 幸蔵	167,060株	2.05%
石井 博幸	161,380株	1.98%
株式会社三菱UFJ銀行	144,000株	1.77%
大和証券株式会社	138,500株	1.70%
石井 朋子	138,240株	1.70%
株式会社広島銀行	110,000株	1.35%
田中 幸夫	109,300株	1.34%

(注) 持株比率は自己株式(23,586株)を控除して計算しております。